

令和2年度学校評価(年度末)

担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
本年度の重点目標	1 基本的生活習慣の確立 3 授業と家庭学習の充実 5 産業の複合化への対応と職業教育の充実 7 部活動・生徒会活動の充実 9 教育活動の効果的な広報	2 道德教育の推進 4 進路実現に必要な能力の育成 6 特別支援教育の充実 8 読書活動の推進 10 ワークライフバランスに配慮した職場環境づくり	
総務部	・防災体制の充実	・避難訓練や避難所体験等を例年通り実施し、手順を確認したり問題点を見つける。	年間3回の避難訓練は予定通り実施できた。消防署を招いての秋の避難訓練は各学年の訓練時間に大きな差が生じないよう検討したい。避難所体験は新型コロナウイルスの影響で従来のように実施できなかった。感染が沈静化したら、依然のように20人～30人規模で実施したい。地震防災マニュアルについては、その時々を情勢を反映した内容に改訂して配布していきたい。
	・広報活動の充実	・行事の記録とホームページの掲載、横断幕の利用、体験入学の企画などにより、本校のPR活動を行う。	体験入学は参加生徒が昨年より減少したが、その後の学校見学会には多くの中学生が参加してくれた。今後は参加した中学生が好印象を持つような体験入学、学校見学会となるよう各学科と協力して実施していきたい。ホームページについては、PTAのページや同窓会のページが充実したものとなるよう各役員会と相談してすすめていきたい。
	・PTA活動、同窓会活動の充実	・PTA役員やPTA理事と連携し活動が充実したものになるようにする。 ・同窓会役員や同窓会委員と協力し同窓会総会の企画、運営にあたる。	新型コロナウイルスの影響でPTAのいくつかの行事が中止となったが、役員との連絡を密にとり、代替の行事がスムーズに行えるようにした。同窓会は総会を中止せざるを得ないことになり例年と比べると活動が低調だった。来年度は70周年記念行事も行われるのでPTAや同窓会と協力してより一層充実した活動となるようにしたい。
教務部	・基礎学力の向上及び授業と家庭学習の充実	・全職員に授業の規律確保と充実に向けた方針をしっかりと伝え、全教員が一丸となり生徒の学習指導、授業規律の確保を目指す。また、各教科において家庭学習の充実をはかる指導を行う。	年度当初において、講師を含め全職員に対し本校の授業に対する取り組み及び授業規律の方針を周知徹底することにより、共通理解のもと学習指導をおこなうことができた。また、指導が必要な場面においても各教科及び学年と連携して対応することができた。来年度以降もより良い教育環境づくりのためにも協力体制を整えていきたい。また、新型コロナウイルス感染症にかかわる自宅待機期間も含め、計画的に各教科・科目において課題等の提供をおこない家庭学習の充実を図ることができた。
	・授業研修及び評価の研究	・各科目において、知識・技能についての到達目標を明確化する。 ・新学習指導要領の要旨に即した授業改善に伴い、評価について研修を行う。	年度当初に作成された年間学習指導計画が、新型コロナウイルス感染症による自宅学習期間により大幅に変更を余儀なくされたが、各教科における工夫・努力により遅延した学習内容を補うことができた。今回のことを契機に、オンラインシステムを含めたICT技術のより一層の活用を検討する必要がある。 新学区集指導要領に向けた評価等の研修が不十分であった。来年度においては計画的・迅速に学校全体で取り組む必要がある。
生徒指導部	・安心・安全な学校づくり	・生徒や保護者にとって安心で安全な学校にするために工夫ある指導を行う。特に今年度に関しては、交通安全指導や防犯対策により一層、力を注いでいく。	交通安全講話を実施し、交通事故の未然防止、マナー・モラル向上について取り組んだが、残念な結果となった。また、例年と比較しても交通事故件数が増加した。 人権週間行事で、性被害について周知することができた。今後は、女子生徒に対する防犯意識の向上や防犯対策を実施していく方向で考えている。
	・基本的な生活習慣の確立	・①挨拶②欠席・遅刻・早退、時間を守る③食生活を含む健康管理④整理整頓(脚下照顧)⑤身だしなみ全般⑥モラル・ルールを守る等、生徒の成長を第一に向上を促す。	特定の生徒に限り、挨拶の減少、欠席・遅刻の増加がみられた。また、精神面での不調を訴える生徒が多かった。そのような生徒を学校全体で把握、理解を深め、コロナ対策を含めた健康管理に努める。
	・人間形成の確立	・高校生としてあるべき人間像を理解させ、卒業後に豊かな人生を歩めるよう生徒一人ひとりにあった人間形成を行う。(自立を促す)	生徒一人一人を取り巻く環境が複雑化し、一律に人間形成の確立が難しくなってきた。日頃から生徒や保護者との信頼関係をより深め、事あるごとに懇切丁寧なコミュニケーションを図る必要があると考えられる。
	・道德教育の充実	自他の命を大切に、人間としての在り方、生き方を考え、自立した人間になるための基盤を作る	日頃の教育活動から道德教育を意識して取り組むことができた。今年度は1度しかできなかったが、DVDの視聴も実施することができた。
	・いじめの根絶と情報モラルの知識向上	いじめや嫌がらせの根絶を目指し、情報モラルを含めたSNS等に関わる諸問題に対する、未然防止、早期発見、早期対応、早期解決を目指す。	いじめにおいてこじれる事案が2件発生した。早期発見、早期対応をしていたが、双方の言い分の食い違いやSNSの問題で対応が困難となった。今後については、いじめの大小に関わらず、早期対応を心掛け、保護者との連絡を密に図り対応をしていく。
保健厚生部	・自律的な健康管理能力の向上	・教員の観察能力の向上を図り、生徒の心身の健康状態の把握に努める。 ・講話や配布物などを通じて、生徒、保護者、職員の健康意識の向上を図る。	新型コロナウイルス感染症の予防として、毎朝の検温及び健康状態を記録した。また、担任による健康観察を行うことにより、保健室と連携を図り、生徒の健康状態の把握に努めた。 新型コロナウイルス感染症予防策として、保健だよりの配布、掲示物、換気・マスクの重要性についてのDVDによる視聴、保健委員の放送による昼食時の注意呼びかけを行い、健康管理の意識向上を図った。
	・組織的な教育相談・特別支援教育の充実	・相談係会・教育相談委員会が学年等と連携し、柔軟な教育相談活動を行い、支援が必要な生徒には特別支援教育委員会を中心として対応する。	相談係会で学年の生徒情報を共有し、教育相談委員会、特別支援教育委員会につなげることができた。スクールカウンセラーとの面談希望者は増加しており、一人一人に対応できる時間が減少している。また、生徒へのカウンセリングだけでは対応が難しいケースがみられ、SSWや外部の公的な支援を活用する必要性が感じられた。
	・読書活動の推進	・本校の蔵書財産を活用し、生徒に本を読む習慣および幅広い教養や、社会人として必要な一般知識の涵養を身につけさせる。	新型コロナウイルスの感染症対策を万全に期した状態での図書館利用に努めることができたが、休校期間の影響もあり閲覧用図書希望調査が予定通りいかず、更なる蔵書の充実を図る必要がある。
図書視聴覚部	・教育活動における視聴覚機器の充実	・実習室をはじめとした、各教室の情報機器を充実させ授業展開の促進を図る。	ICT機器の充実に合わせて、利用環境の整備を行った。今後は職員に対して、ICT機器のより良い利用方法の周知が課題となる。また、授業をはじめとした教職員の貸し出し体制については現状が貸出帳簿の記入によることから、定期的に所在確認を行う必要があり、効率の良い管理体制の構築が必要である。
	・学校HPの活用	・HPの再構築を図ることで、広く地域住民に対し本校教育活動を広報するための一翼を担う。	新型コロナウイルスの影響で、学校行事や部活動をはじめとした多くのHP更新内容が少ない中、出来る限りのHP更新に努めた。また、各種連絡事項の早期掲載にも努め、保護者・生徒への早急な連絡手段としてHPを活用することができた。

担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
進路指導部	・基礎学力の向上	・長期休業中、連休などを有効活用し、一般常識を中心に基礎学力の向上をめざし問題集を購入し実施する。	各学年において、一般常識に関する問題集を購入し、計画的に取り組みました。定期的な問題集を提出させ、進捗状況を確認し、適宜個別に指導した。また、確認テストを実施するなどして、生徒一人ひとりの自己理解を促し、自発的な学習態度の確立に努めた。 2年生では、スタディサプリを有効活用し、適宜課題を配信し、生徒の進捗状況を確認した。問題集の解説を読むだけでは理解できない生徒も多いため、解説動画を確認できる本コンテンツは、本校生徒の実情に合っていた。
	・進路情報の提供	・進路説明会、保護者会、学校のホームページなどを通して、家庭への進路情報の提供を充実させる。	進路指導室前の掲示板に、企業や上級学校から提供される写真付きの卒業生の情報を掲示することで、マグネットスペースとしての機能を持たせた。その結果、昨年と比較すると多くの生徒が進路指導室前の廊下で足を止め、進路情報を閲覧したり、進路資料を持ち帰る姿が見られた。 2年生の進路ガイダンスにおいては、本年度より実施内容を再考した。就職希望者には「職業適性検査の見方活かし方講座」、進学希望者には「マネープラン講座」を実施した。さらに、これまでは生徒のみを対象にしていたが、本年度からは保護者も参加していただける取組に変更した。多くの保護者に進路に係る有益の情報を提供することができ、意識の啓蒙が図られるように努めた。
	・進学先選択の幅を充実	・大学、短大、専門学校などの学校の特徴を理解させ、長期的な視野に立ち将来の職業選択に結びつける。	2、3年生を対象に3月に分野別ガイダンスを実施する予定であり、上級学校に進学する意義を考えさせたい。また、就職希望者に対しては、面接対策講座を実施し、基本的なビジネスマナーや所作を身に付けさせる機会を設ける予定である。さらに、1年生の希望者を対象に、マネープラン講座も開講する予定である。家庭の都合や奨学金について、親子で話し合う機会を提供することで、早い段階から進学費用について考えさせたい。
特別活動部	・部活動と生徒会活動の充実	・生徒が主体的に取り組む部活動・行事の充実	生徒会執行部による執行部会を定期的に月曜日に開催し、生徒と教員の意見交換をすることができた。部活動は、コロナ禍による制限がある中で、合宿や大会の中止が余儀なくされ、充実した活動を行うことが出来なかった。また、部活動を辞めていった生徒が中途半端な状態になっているので、転部しやすいように仕組みを考えていきたい。
		・各学年会との連携を向上させる。	担任(学年)会・学科・分掌を軸とし、学年会で生徒会所属の担当教諭より、詳しい説明を行い、相互情報の伝達をした。また、事後アンケートや反省から、次回に向けて資料を残した。
		・学校行事等を早めに取り組みせ、より充実させる。	今年度は、コロナ禍の状況で例年通りの進め方を実施することが出来なかった。生徒に早めに取り組みせる前に、教員間での意見統一をまとめる事が出来ず、大変苦慮した。

担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
第1学年	・基礎学力の向上	・毎日の授業を大切にさせる。	課題の提出や授業態度などは、日々の指導の積み重ねの成果が少しずつ出てきたように思われる。引き続き、基本的なことを確実に身につけさせるよう、指導していきたい。
	・部活動や行事への積極的参加	・部活動や学校行事に積極的に参加させる。	部活動は2学期に入り転部を希望する生徒も出始めたが、多くの生徒は頑張って活動している。来年度に向けて、さまざまな場面で活躍できるよう、声をかけながら取り組ませたい。
	・主体性の向上	・自ら考え、進んで行動する力の基礎を身に付けさせる。	少しずつではあるが、考えて行動できる生徒も増えてきた。経験したことに対しては進んで行動できるようなので、いろいろな経験を積めるような場面を作っていきたい。
第2学年	・基本的な生活習慣の確立	・進路の実現を見据えた生活習慣を身につけさせる。	昨年に引き続き保健室の利用が多く、欠席も他学年と比べて多い。社会人として健康管理は基本であることを再認識させ、今一度自己の生活習慣を振り返らせたい。
	・進路実現に向けての学習意欲向上	・授業等の学習活動に意欲的に取り組み、進路への意識を高める。	数は多くないが、指定校推薦の評定を気にかけながらテストに取り組む生徒もみられるようになり、進路を見据えて学習に取り組むことができるようになってきた。
	・学校行事、部活動の充実	・学校行事や部活動に積極的に参加させる。	行事には積極的に取り組む様子が伺えたので、来年は下級生を先導する立場であることを意識づけていきたい。
	・主体性の更なる向上	・自ら考えて行動する機会を増やし、主体性の向上を図る。	部活動で部長を務めている生徒を中心に、主体的に行動することができるようになってきた生徒が増えてきた。引き続き考えて行動させる機会を与えていきたい。
第3学年	・進路指導の充実、連携	・自分を見つめ、ライフプランを考えた進路選択をさせるように指導する。	進路指導部と連携を密にとり、生徒一人一人に合った進路選択ができるように指導できた。また、学年に限らず多くの先生方に面接練習等にご協力いただき、学校全体として生徒をバックアップできた。
	・自立性、社会性の確立	・生徒が主体的に考えて行動できる様、準備と指導をしていく。	生徒の自立性や社会性は特に行事の中でみられるが、いくつかの行事は中止となってしまった。しかし、学校祭では積極的にステージ発表の準備をする姿や、体育祭で後輩を牽引する姿などがみられた。
	・自信の確立	・生徒が胸を張って就職、進学できるように指導する。	就職希望者、進学希望者ともに、「自信を持ってやり切る」という言葉を投げかけ、これまでの2年半で努力してきたことをアピールできるよう指導した。まだ、数名の進路未決定者がいるので、最後まで学年全体でフォローしていく。
総合ビジネス・ 情報処理科	・学科コースの特長を踏まえた取組の推進	・各コースの特色が出せるように、必要に応じて外部講師の招聘や地域連携、高度資格取得を目指す。また、進路選択の一助となるよう指導する。	コロナ感染症拡大により、予定していた学習内容や学科の取組の変更を余儀なくされた。その中で、代替の取組として外部講師招聘を計画し実施した。とても分かりやすい内容で、よい成果を得られた。
	・専門的知識の習得と資格取得	・検定前に適宜補習を行い、生徒の資格取得に向けてより丁寧な学習指導を行う。 ・計画的な課題指示および確認により家庭学習を促し、生徒1人ひとりが学習内容を着実に理解できる指導体制を整える。 ・科目ごとに指導内容や方法、評価等について研究・協議するとともに、魅力的な授業が展開できるよう、積極的に授業研修を行う。	授業の進度は例年に比べると若干の遅れはあったが、その分を課題や個別指導で補った。検定前にも補習等を行った。 評価方法については、今後も研究していく必要がある。
	・広報宣伝活動の充実	・HPの更新、体験入学や学校説明会などを通じて、積極的に総合ビジネス・情報処理科の宣伝活動を行う。	大きな取組があった際は、できるだけ学科ブログの更新を行った。しかし、もっと日常の様子も商業科の各先生方から情報を集め、情報発信していく必要がある。
	・新カリキュラムの構築に向けて、新学習指導要領に応じた科目・学習内容の把握と学科、コースの見直し	・新学習指導要領の内容を理解し、各科目の学習内容を検討する。	新カリキュラムの構築に向けて、グランドデザインを作成し検討を進めている。学科ごとの大枠はある程度科内に伝達することはできた。しかし、まだ詳細な分の決定にはまだ時間を要するため、来年度も引き続き検討を重ねていく必要がある。
	・専門的な知識や技術の習得と資格取得	・外部講師の活用や個に応じた指導を充実させ、各コースの専門性を高める。 ・各種の資格取得やコンクール等に挑戦させる。	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため時期が遅れたが、調理やアパレルCADの外部講師を招聘して専門的指導を受けることができた。また、各種検定やコンクール等に取り組み、成果をあげた。
生活文化科	・新学習指導要領に向けての取組	・学習指導要領の内容を理解し、家庭科目について、目標、評価等の検討を行う。	新教育課程について、家庭科目の検討を行った。評価については、伝達講習会が中止となったため、次年度に検討したい。
	・学科行事および学校家庭クラブ活動の充実	・年間を通じて、学科行事や家庭クラブ活動への効果的な指導を行う。	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、1学期は例年実施している活動や学科行事のほとんどが中止となった。しかし、2学期以降は、地域の方との交流や、特産物の調理方法の研究などを行い、文化祭で展示発表することができた。
	・校外介護実習の充実	・事前事後指導のあり方を見直し、生徒が意欲的に介護実習に取組めるようにする。また実習指導者との連携を密に図り、効果的な介護実習の実践を目指す。	校内実習に切り替えた実習もあったが、校外実習と同等の成果を得られるよう工夫して指導をおこなった。校外実習の際は、実習指導者と学習内容や実習内容について情報交換を行い、連携することができた。次年度以降は、生徒個人の習得度についても実習指導者と連携しながら設定していきたい。
福祉科	・介護福祉士国家試験合格に向けた学習指導	・模擬試験の活用や補習を効果的に活用する。	4回の模試を行ったが、模試と模試の間の期間を効果的に活用することがあまりできなかった。各回の模試に向けた具体的な目標を設定させていきたい。
	・新学習指導要領に応じた学習内容の把握	・新学習指導要領の内容を理解し、各科目の学習内容を検討する。	評価方法や指導内容について、教員間の連携を図りながら精査することができた。来年度に向けては、他教科との連携(カリキュラム・マネジメント)もすすめていきたい。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		1 基本的な生活習慣の確立及び規律ある学習指導と家庭学習の充実を図る 2 進路実現に必要な能力を育成するとともに職業教育の充実を努める 3 教育活動の効果的な広報について、体験入学、学校見学会の内容を検討するとともにホームページによる各学科の教育活動の発信に努める。 4 在校時間等の状況記録の結果を活用し、業務の適正化を図るとともに教職員の確実・適切なメンタルヘルスの保持に努める。 5 教職員の年次休暇の計画的な使用や定時退校日を促進するための環境整備に努める。	